

ごあいさつ

代表：岩村和彦

新年明けましておめでとうございます。今年もまたニュースレターをお届けする季節となりました。会員の皆様にはこの一年ひとかたならぬご支援、ご協力をいただき深謝申し上げます。

ニュースレターは会の活動状況をお知らせする貴重なものです。どうぞじっくりと読んでいただき、皆様には賛否を含めてご意見をいただければ幸いです。来年3月7日には案内にあります第10回目のトイレフォーラムも予定しています。有益な情報交換や議論ができれば嬉しく思います。

第10回山のトイレフォーラムが3月7日(土)13時より、札幌エルプラザで開催決定！多数の参加をお待ちしています！

◆活動報告

1. 第9回フォーラムの開催 (2008. 3. 8)

第9回山のトイレフォーラムが札幌市エルプラザで開催され、56名の参加者を迎えて行われました。

テーマは「登山者が山のトイレ管理にどう関わるか」です。

講演者は下記の2名でした。

・加藤峰夫氏 (横浜国立大学教授)

「自然公園制度のこれから一新・尾瀬国立公園を例として」

・高橋 健氏 (日高山脈ファンクラブ事務局長)

「幌尻岳のトイレ問題とその対策」

加藤峰夫氏は、2007年に日光国立公園から分離独立した尾瀬国立公園の経緯と尾瀬が抱える諸問題と課題、自然保護で一番進んでいると言われる尾瀬の維持管理に携わる人々の活動について紹介。そして日本の自然公園法の不備を補完する諸制度を活用することにより、保護と利用が世界的なレベルまで上げることができるとの提言がありました。高橋健氏は、幌尻山荘に導入した水力発電式バイオトイレが予算の関係で1基となり、容量が不足して仮設トイレを設置していること。また、毎年仮設トイレの排泄物担ぎ下ろし行い、来年以降も実施すること。そして今後の展望についてお話しされました。講演の後、美瑛富士避難小屋トイレ案が当会から提案され、技術的な内容と維持管理方法について議論、問題点の共有を図りました。

2. 山と渓谷社「山岳環境賞」受賞 (2008. 6. 30)

当会が、山と渓谷社の2007年度山岳環境賞(A賞)を受賞しました。賞金額は20万円です。美瑛富士避難小屋への登山者計測用の赤外線カウンターの購入費用と新版の山のトイレマナーガイド制作費に当てたいと考えています。月刊誌「山と渓谷」2008年11月号にその内容が掲載されています。

3. 幌尻山荘の排泄物担ぎ下ろしに参加 (主催：日高山脈ファンクラブ) (2008. 7. 19~21) (2008. 9. 13~15)

日高山脈ファンクラブ(樋口和生会長)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに当会の会員も参加しました。幌尻山荘では、バイオトイレが1基、貯留式の仮設トイレ2基を設置しています。

排泄物の担ぎ下ろしは、2005年から毎年実施しています。今年は7月と9月の2回実施。仮設トイレの排泄物約780kgを担ぎ下ろしました。

増水した額平川を排泄物を担いでの渡渉は神経を使いましたが、事故もなく無事終了することができました。



第9回山トイレフォーラム模様



幌尻山荘の仮設トイレ汲取り作業の様子

4. 大雪山避難小屋に清掃用具配備 (2008. 8. 19)

大雪山国立公園にある避難小屋トイレ3箇所（ヒサゴ沼、忠別岳、上ホロ）について、三人の登山者のご協力を得て清掃用具を配備しました。

各2個づつトイレがありますので、全部で箒、チリトリが6組です。（白雲小屋には管理人さんが夏期常駐していますので、配備しませんでした）

登山者がトイレを利用した時に、紙が散らかっていた場合、清掃用具があると助かります。少しでもトイレが綺麗で、気持ち良く利用できる様、登山者の皆様のご協力をお願いします。

※「セブニーレブンみど

りの基金」からの助成金で清掃用具を配備することができました。



5. 山のトイレTシャツの作成配布 (2008. 8. 20)

「山のトイレを考える会」では、啓発を目的に「セブニーレブンみどりの基金」から助成金をいただき、Tシャツを作成しました。

菅原靖彦氏のデザイン、Tシャツの色も好評です。速乾性ですので、山に登る時に着て行ってもよいです。

また、毎年山のトイレデーとかフォーラムなどのイベントで着るなど有効活用したいと思います。

（Tシャツ希望者から賛助金のご支援もいただきました。ご協力ありがとうございました）



Tシャツ（表）



Tシャツ（裏）

6. 2008山のトイレデー実施（2008. 9. 7）

2008トイレデーは、あいにく天候が悪く雨の中での活動となり、活動日を延期したチームもあります。

北海道の約25箇所の登山口でマナー袋と山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一齐に行いました。

参加者は約100名、マナー袋は約1200枚、マナーガイドは約700部を配布することができました。昨年のトイレデーに引き続き、今回も当会の活動目的の一つである「トイレ紙は持ち帰りましょう」を主活動とし、新しく作成したTシャツを着て登山者に呼びかけました。



手稲山でのトイレデー（2008.9.7）

7. 北海道大学の船水教授との勉強会 (2008. 10. 7)

北海道大学の船水尚行教授を講師に迎え、山のトイレの勉強会を実施しました。参加者は当会の運営委員10名、日高山脈ファンクラブ2名、環境省2名、森林管理署1名、上川支庁1名の全部で17名でした。

第9回フォーラムで提案した美瑛富士避難小屋に似合うトイレについて話あいました。尿尿分離、尿土壌処理の課題、糞便は水分が8割であることから、トイレの換気をよくして乾燥させるのが有効であることなど、質疑応答も活発で本当に有意義な勉強会でした。

8. 北海道登山研究集会で基調報告 (2008. 11. 9)

道央地区労山主催の第37回北海道登山研究集会在札幌エルプラザで開催され、第4分科会で仲俣が「北海道の山トイレの現状と課題」と題して基調報告をしました。

第4分科会の参加者は27名で、山のトイレ問題を登山者に理解し協力してもらうこと、行政にも改善に向け積極的な働きかけが必要であると意見集約されました。

連絡先

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院内

山のトイレを考える会事務局（担当：愛甲哲也）

電話&FAX：011-706-2452 電子メール：hokkaido@yamatoilet.jp

<http://www.yamatoilet.jp>

（ニュースレター編集）
仲俣善雄